２００６～２００７年度

国際ロータリー第２６４０地区　I.M.３組

INTERCITY MEETING

「クラブ・リーダーシップ・プラン(C.L.P.)を考える」

国際ロータリー第２６４０地区ガバナー　　三軒久義
ゼネラルリーダーP.D.G.　　小島　哲

■日時　２００６年１２月２日(土)　■場所　和歌山東急イン

参加クラブ

和歌山ＲＣ　　和歌山東ＲＣ　　和歌山東南ＲＣ
和歌山西ＲＣ　　和歌山北ＲＣ　　和歌山中ＲＣ
和歌山城南ＲＣ　　和歌山アゼリアＲＣ　　和歌山南ＲＣ
ホストクラブ　　和歌山南ロータリークラブ

2006～2007年度　国際ロータリー第2640地区I.M.第3組

INTERCITY　MEETING

R.I.テーマ：LEAD　THE　WAY
「率先しよう」

I.M.第3組メインテーマ

「クラブ・リーダーシップ・プラン(C. L. P.)を考える」

国際ロータリー第2640地区ｶﾞﾊﾞﾅｰ　　三　軒　久　義
ゼネラルリーダーP. D. G.　　小　島　　哲

日　時　　**2006年12月2日(土)**

場　所　　**和歌山東急イン**

第1部　事前会議

時　間	所要時間	会　場	会　議　名	担当
11:00～11:30	30分	4F	登録受付	
11:30～12:30	60分	2F　橘	ロータリー財団部門会議	中島ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ(ｶｳﾝｾﾗｰ) 平原ｶﾞﾊﾞﾅｰｴﾚｸﾄ 地区ｶｳﾝｾﾗｰ補佐・委員長・委員 各クラブR・財団委員長
		3F 聚楽・飛鳥	米山奨学会部門会議	小島ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ(ｾﾞﾈﾗﾙﾘｰﾀﾞｰ) 前田ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 地区ｶｳﾝｾﾗｰ補佐・委員長・委員 各クラブ米山奨学委員長
		3F 那智・勝浦	会員増強・退会防止部門会議	三軒ｶﾞﾊﾞﾅｰ 平尾直前ｶﾞﾊﾞﾅｰ 亀岡ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 前窪ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 井出ｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐 片桐ｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐 地区委員長 各クラブ会員増強委員長

第2部　本会議

時　間	所要時間	会　場	次　　第	担当
12:30～13:30	60分	4F	登録受付	
13:30～14:00	30分	4F 平安の間	開会 点鐘 君が代・奉仕の理想　斉唱 歓迎の挨拶 ガバナー挨拶 ゼネラルリーダー挨拶 ｶﾞﾊﾞﾅｰ・ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ・地区役員等紹介 参加クラブ出席報告	 井口ホストクラブ会長 宮下ｿﾝｸﾞﾘｰﾀﾞｰ 井口ﾎｽﾄｸﾗﾌﾞ会長 三軒ｶﾞﾊﾞﾅｰ 小島ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 小島ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 野村登録委員長
14:00～14:30	30分		ﾃｰﾏ趣旨説明・演者紹介 基調講演 「CLPについて」	前田I. M. 実行委員長 講師　　中村ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ
14:40～16:00	80分		パネルディスカッション 「CLPを考える」	コーディネーター上野山地区情報規定委員長 パネリスト　　9クラブ代表者
16:00～			講評 総評及び次回ホストクラブ紹介	小島ゼネラルリーダー 三軒ｶﾞﾊﾞﾅｰ
	30分		次回ホストクラブ会長挨拶 閉会の挨拶	久保和歌山中ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ会長 田中I. M. 実行委員長
～16:30			閉会点鐘	井口ホストクラブ会長

第3部　懇親会

時　間	所要時間	会　場	次　　第	担当
16:40～17:40	60分	3F 万葉の間	開会の挨拶 乾杯 閉会の挨拶 手に手つないで	前窪ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 中島ﾊﾟｽﾄｶﾞﾊﾞﾅｰ 大山ﾎｽﾄｸﾗﾌﾞ副会長 西村ｿﾝｸﾞﾘｰﾀﾞｰ

メインテーマ演者氏名

基調講演講師	富田林RC		中村幸吉パストガバナー
コーディネーター	有田RC		上野山英樹地区情報規定委員長
パネリスト	和歌山RC	（登壇）	寺下俊雄会長
パネリスト	和歌山東RC		藤田昌宏情報規定委員長
パネリスト	和歌山東南RC	（登壇）	市川正夫CLP検討委員長
パネリスト	和歌山西RC		中村守孝直前会長
パネリスト	和歌山北RC		山本倫弘会長
パネリスト	和歌山中RC		久保邦臣会長
パネリスト	和歌山城南RC		山本好信会長
パネリスト	和歌山ｱｾﾞﾘｱRC	（登壇）	吉岡恵美会長
パネリスト	和歌山南RC	（登壇）	井口廣昭会長

地区役員・委員長名簿

ガバナー	三軒久義	財団部門カウンセラー補佐	岩本行弘
直前ガバナー	平尾寧章	財団奨学金委員長	吉野惣太
パストガバナー	月山和男	財団奨学金委員	中村守孝
パストガバナー	中島治一郎	財団奨学金委員	初田隆生
パストガバナー	中村幸吉	財団研究グループ交換等委員長	坂本順一
パストガバナー	亀岡　弘	財団研究グループ交換等委員	山本唯二
パストガバナー	前田孝道	財団学友委員長	川端健夫
パストガバナー	小島　哲	米山奨学部門カウンセラー補佐	松下光春
パストガバナー	前窪貫志	米山奨学事業委員長	神谷尚孝
ガバナーエレクト	平原祥彰	米山奨学事業委員	浦口英尚
ガバナー補佐	井手幸男	会員増強(退会防止)委員長	倉橋　祐
ガバナー補佐	片桐　牧	ロータリー情報・規定委員長	上野山英樹

奉仕の理想

奉仕の理想に　集いし友よ

御国に捧げん　我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車　いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー　　ローターリー

手に手つないで

1　手に手つないで　つくる友の輪
輪に輪つないで　つくる友垣
手に手　輪に輪
ひろがれ　まわれ　一つ心に
おゝロータリアン　おゝロータリアン

2　手に手つないで　つくる友の輪
輪に輪つないで　つくる友垣
手に手　輪に輪
ひろがれ　まわれ　世界とともに
おゝロータリアン　おゝロータリアン

（参加クラブ）　和歌山RC　和歌山東RC　和歌山東南RC
和歌山西RC　和歌山北RC　和歌山中RC
和歌山城南RC　和歌山アゼリアRC　和歌山南RC

ホストクラブ　　和歌山南ロータリークラブ

第一部事前会議「ロータリー財団部門会議」

出席者	パストガバナー	中島治一郎
	ガバナーエレクト	平原祥彰
	地区財団部門カウンセラー補佐	岩本行弘
	地区財団奨学金委員長	吉野惣太
	地区財団研究グループ交換等委員長	坂本順一
	地区財団学友委員長	川端健夫
	各クラブロータリー財団委員長	
	ロータリー財団奨学生	王　璽琪
	司会（和歌山南ＲＣ）	大山典男

（岩本）本日の事前会議、関係者全員がお集まりいただきましたことお礼申し上げます。本日は国際親善奨学生、ＧＳＥ、寄付金などについてご説明申し上げます。

（中島）ロータリー財団に関しましてはいろいろご協力ありがとうございます。私たちの寄付は浄財の寄付であります。そこで最近の寄付に関する考え方を申し上げます。まずプログラム有りきであり、生きたお金の使い方を主張していくべきであります。まずお金ありきではありません。ロータリー財団の寄付は強要してはなりません。プログラムが良くて、よく理解していただいて、寄付していただくようにしなければなりません。信念を持って進めていただきたいと思います。この地区には素晴らしい指導者の方が多くいらっしゃいますので何なりとご意見をお聞かせください。

（岩本）続きまして国際親善奨学生につきまして吉野委員長よりご説明いただきます。

（吉野）国際親善奨学生は、海外留学を通してロータリークラブと海外の非公式の親善使節として役割を果たすことを目的としております。2007-8 年度は、皆様のおかげで 14 名の奨学生を選ぶことが出来ました。和歌山東ロータリークラブでお世話になっております王　璽琪さんも 6ヶ月間の文化研修として台湾より来られています。勉強熱心で素晴らしい奨学生だと思っております。続いて 2008-9 年度財団奨学生募集要項についてご説明させていただきます。（記録者注、「財団奨学生募集要項」及び手続きにつきましては各ロータリークラブ参加者が資料お持ちです。ご参照

ください）

（岩本）続いてＧＳＥについて坂本委員長お願いいたします。

（坂本）このＧＳＥプログラムは一昨年ブラジル、昨年シカゴと3年続いております。関係の皆様にはいろいろお世話になりありがとうございました。2007-8年度本年度ＧＳＥプログラムは、イギリスのWalesです。「ＧＳＥ派遣団長及び団員募集のご案内」の説明をさせていただきます。（記録者注、「募集要項」及び手続きにつきましては各ロータリークラブ参加者が資料お持ちです。ご参照ください）

（岩本）続きまして財団学友委員会につきまして川端委員長お願いいたします。

（川端）財団学友委員会とは、帰国した財団国際親善奨学生およびＧＳＥの団長、団員によって組織される会です。現在426名が所属しています。帰国報告会、財団国際親善奨学生のオリエンテーション、ＩＭ事前会議への出席、クラブ例会卓話など要請があれば参加するようにしています。

その他、ロータリーカードの説明、ロータリーセンターへの派遣募集、2005-6年度地区別寄付額からみた2008-9年度の奨学生人数枠などについて説明がありました。

第一部事前会議「米山奨学部門会議」

出席者	パストガバナー	小島　哲
	パストガバナー	前田　孝道
	米山奨学部門ｶｳﾝｾﾗｰ補佐	松下　光春
	米山奨学事業委員長	神谷　尚孝
	米山奨学事業委員	浦口　英尚
	各クラブ米山奨学部門委員長	
	司会（和歌山南 RC）	大林　久夫

（神谷） 本日は各クラブの委員長さんにお話をお伺いし、皆さんで知恵を出し合う会議としたいと思います。

（松下） 米山奨学金は約 50 年の歴史をもち、ｶｳﾝｾﾗｰ制度など他にないｼｽﾃﾑを持つ日本ﾛｰﾀﾘｰ独自の活動です。これまで約 13,000 人の留学生を支援してきました。もちろん活動はﾛｰﾀﾘｰの皆様の寄付で成り立っております。今後ともご協力お願いします。

（小島） 資料を見ていただきたいのですが、2640 地区で 1 人平均寄付額が 1996 年 26,451 円だったのをピークに現在では 2 万円ぎりぎりの所まで下がっています。これは米山に対する熱意が下がったのかとも思われる所で、今日は皆さんにその辺のご意見をお伺いしたいと思います。

（松下） たしかに 1996 年をﾋﾟｰｸに年間の奨学生の人数も、援助出来る金額も減少している。2640 地区でも寄付の割合いにより対応できる人数が少なくなっている。また中国の留学生の割合が圧倒的に多いのも問題である。

（神谷） ｸﾗﾌﾞにより（米山奨学金に対する）温度差が有るのも事実です。担当の委員長さんがｸﾗﾌﾞ内で大いに声を上げて頂き、米山の運動を意義有るものにして頂きたいと思います。
それでは今のｸﾗﾌﾞの現状をお話して頂きます。資料の順に発表をお願いします。

（和歌山 RC） 今の留学生は台湾の方で、楽しんでﾛｰﾀﾘｰにも参加して頂いている。こちらもその点良かったなと思っていますが、現状ではそれ以上、積極的に応援している状況に無いのも事実です。

(和歌山東 RC) その年度の米山の委員長さんにより中国の留学生に偏った状況になる、もっとﾊﾞﾗｴﾃｨｰに富んだ方が良いと思います。またたくさん(寄付を)集める年もあれば、最初から平均額であれば良いと考えている年があったりと、委員長さんや委員会次第で内容は大きく変わります。また単年度の制度なので次年度への引き継ぎが上手くいかない所もある。

(神谷) CLP に米山の文字が出てこないのを心配している。日本のﾛｰﾀﾘｰ活動において米山は大変、大きな事業と考えて頂きたい。

(小島) 寄付額が急降下している時期があるが、その点どうお考えですか？

(和歌山東 RC) 寄付の内容が、それまでは個人の寄付に頼っていたのを、年会費から全体的にあつめるｼｽﾃﾑに変わったのが原因と思います。

(神谷) 周年事業としも米山を取り上げて欲しいと思います。

(和歌山城南 RC) 城南ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞは寄付の点では目標に達していると思います。今年も例年のように集める予定です。

(松下) 会費で寄付金を集める場合は、理事会で審議するなどｸﾗﾌﾞの承認を得て欲しい。

(和歌山北 RC) 2003～5 年と寄付額が減少している。これは会員の減少が原因となっている。会員が減ると志気も落ちる、当然(米山に対する)意識も低下する。また本当に必要な人に奨学金が渡っているか疑問もある。それと中国の留学生に偏るのも問題です。日本人でも経済的に苦しい学生には渡しても良いのでは無いかとも思います。

(松下) 必要な人に渡すという点は大いに検討する必要がある。また中国に偏重するのは中国からの留学生の数が多いため致し方ない。ただ各大学には 1 国で 50%を超えないように伝えてはいます。

(神谷) 米山奨学金は日本語が出来る優秀な学生が条件になる。ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの事もあり経済的な事は聞きにくいと言う事もある。

(松下) 学友会の推薦や、現地採用も考える必要がある。

(和歌山南 RC) 和歌山でも 65%の留学生は中国の方で、私費で留学しています。その方たちは（現地では）裕福なのかもしれませんが、賃金のﾚﾍﾞﾙに差があるので、こちらでは働いている学生が多い。米山奨学金を貰えた学生は学生らしい生活が出来るが、その他大勢の学生はｱﾊﾟｰﾄの敷金を払えないのが現状です。この点で米山奨学金は素晴らしい事業です。しかし現地採用をもっとすべきでは無いかと思います。他のｱｼﾞｱの国々では日本に来られない学生が多い。日本が今後ｱｼﾞｱにおいてどう活躍するか、そう言う意味でも重要な事業だと思います。

(和歌山中 RC) 2005 年が飛び抜けて低いのが辛いのですが、当ｸﾗﾌﾞも北ﾛｰﾀﾘｸﾗﾌﾞと同じ問題を抱えています。またそんなに中国の学生ばかりに援助すべきかという話がある。ただ現状では当ｸﾗﾌﾞにおいては、まず会員数を増やすのが第一の問題です。会員数を増

やし寄付を 2002 年ﾚﾍﾞﾙに戻したいと思います。

(和歌山西 RC) 当会でも 2，3 年前から目標額を下回っている。そこでお聞きしたいのですが、寄付は 10 月の米山月間が中心ですか？もしくは 1 年を通じて行っているのですか？また会費に含めることで会員から問題が出ていませんか？

(松下) 先ほども言ったように、会費で寄付金を集める場合は、理事会で審議するなどｸﾗﾌﾞの承認を得て欲しい。また寄付は 1 年を通じて集めて頂きたい。

(小島) 米山月間は米山奨学金を PR する時期と考えて頂きたい。

(和歌山東南 RC) 当ｸﾗﾌﾞでは 2005 年度、平均の倍近い（平均寄付）額が集まっている。ただこれは特定の人が多く出している結果であって、その点留意する必要があると思います。中国の留学生については良くやっていると思います。会員もその成長を楽しみにしており、その点米山は良い制度だと思います。

(神谷) それでは全てのｸﾗﾌﾞが終わったので、こちらからお話ししようと思います。まず寄付の状況などのﾃﾞｰﾀが事務局に送られていると思いますが、委員長さんは毎月それを見ておられるのでしょうか？ﾊｲﾗｲﾄ米山には色々なﾄﾋﾟｯｸｽが載っているので是非見て頂きたい。

(前田) 日頃は真剣に米山事業に取り組んでいただき有り難うございます。米山奨学金は日本ﾛｰﾀﾘｰの制度の中でも誇るべき事業です。しかし数多く広報してもなかなか(ｸﾗﾌﾞへの広報)効果が出ない。この点は委員長の熱意によっても、ｸﾗﾌﾞへの伝わり方が大きく違うと思います。米山に興味をもって頂き、協力して頂きたい。私たちは恵まれています。その私たちが動かなければ、世の中は良くなりません。
さて先日ｿﾞｰﾝ研究会で東南ｱｼﾞｱの地雷の問題について話し合いました。しかしﾛｰﾀﾘｰがいくら言っても国家ﾚﾍﾞﾙの問題は難しい事です。ですがより良きを目指し、声を上げていくのは遠い道かもしれませんが必要な事だと思います。

第一部事前会議「会員増強・退会防止部門会議」

出席者	ガバナー	三軒　久義
	直前ガバナー	平尾　寧章
	パストガバナー	亀岡　弘
	パストガバナー	前窪　貫志
	ガバナー補佐	井出　幸男
	ガバナー補佐	片桐　牧
	地区副代表幹事	辻　知昭
	地区会員増強委員長	倉橋　祐
	各クラブ会員増強委員長	
	司会（和歌山南 RC）	島村　辰彦

（倉橋）２６４０地区で１０月末現在で２６４０名のメンバーがあり、全国レベルでみても優秀である。会員増強を計るにはどのクラブでも新しい血を注入していかないと衰退していく、新しい血をいかに注入するか その手段を考えていかなければならない。

（三軒）出席率の向上、会員増強の向上、ただ増やすのではなく職業分類を主として量と質を考えて頂きたい。

（亀岡）２６４０地区に関しては今年は昨年よりも少し増えているが、他の地区が減ってきている。新しいメンバーの勧誘に力を入れるのも大事であるが会員の退会防止に力を入れる必要があるのでは、やめて行く方の意見として　そのクラブのリーダーシップの弱さ・費用が高い・奉仕の機会が少ない・新会員に早期に責任あるﾎﾟｽﾄにつかせ、やりがい意欲をもたす又はﾍﾞﾃﾗﾝﾒﾝﾊﾞｰは補佐的立場にまわる等、会費に見合う管理運営が出来ているのか等、改善点を見直す事により退会防止につながると思われる。

（和歌山 RC）当クラブは会員が増えてきている ６９名→７７名 来年の６月には８０名を超えるだろう。

（和歌山東 RC）バブル崩壊語退会したメンバーに再度復活をしてもらう様、声をかけている。

（和歌山東南 RC）平均年令が６４才なので、このまま１０年経つと老人ｸﾗﾌﾞになってしまう若い人の入会に力を入れ、現在４３名→５０名にもっていきたい。I.D.M にて班別で競い合い多く入会した所に会長賞を出してもらう。

（和歌山西 RC）住金・花王関係のメンバーが減った。昔はテリトリーがあったがテリトリー以外からの増強をはかりたい。

（和歌山北 RC）当クラブは前年度クラブが機能していなかったが、再度会員増強に力を入れたい。

第二部「本会議」

【趣旨説明】　なぜ「ＣＬＰを考える」をテーマに取り上げたか

前田耕道ＩＭ３組実行委員長

クラブ強化のための管理枠組みとして提唱されたＣＬＰを採用するかどうかはクラブ会員にかかる重要問題であるとともに、すでに様々な論議が展開され困惑を生じている。そこでＣＬＰに詳しい中村幸吉パストガバナーを招聘し、わかりやすく基調講演をいただき、その後各クラブの代表の方々に出て頂きパネルディスカッションを行うこととした。

ＣＬＰについてこの場で反対あるいは賛成を決めるのではなく、参加した一人一人がＣＬＰについて考えていただくことが目的である。

【基調講演】　ＣＬＰについて

中村幸吉パストガバナー

2004 年 11 月の RI 理事会ハイライトにＣＬＰを含む改訂版の推奨クラブ細則が収載されていたのが始まり。地区として情報を収集し、2005 年 12 月の PETS で紹介した。

肝腎なことは、2640 地区として今年度も含めてどう対応するかである。地区としての対応は以下の３項目である。

①ＣＬＰに基づく５クラブ委員会構成に対応する地区組織を編成することは考えていないが、クラブ･地区運営の改革の検討から、ガバナー案が提示されるものと思われる。

②クラブがＣＬＰにもとづく５クラブ委員会構成に関心のある場合、地区としてとして支援・協力する。

③今後とも情報の収集とその検討に取り組み、逐次、クラブに情報を提供する。

ＣＬＰが完全なものかどうかはわからないが、クラブ活性化のための道具である。地区から、これはおもしろいからやってみなさいというものではなく、あくまでもクラブ自身の問題である。

ＣＬＰはクラブのあり方を考え、細則に反映させる良い機会であるといえる。

職業奉仕をないがしろにしている面があり、自分のクラブでは職業奉仕を中心にして立派な細則を作ろうというになった。ＣＬＰ、ＤＬＰの様なクラブ運営に関わることは、せひとも規定審議会の決議を経て提示されるよう強く要求してゆく。

パネルディスカッション　ＣＬＰを考える

コーディネーター　上野山英樹地区情報規定委員長
パネリスト　寺下俊雄（和歌山ＲＣ）
藤田昌宏（和歌山東ＲＣ）
市川正夫（和歌山東南ＲＣ）
中村守孝（和歌山西ＲＣ）
山本倫弘（和歌山北ＲＣ）
久保邦臣（和歌山中ＲＣ）
山本好信（和歌山城南ＲＣ）
吉岡恵美（和歌山アゼリアＲＣ）
井口廣明（和歌山南ＲＣ）

上野山コーディネーター；ＣＬＰについては情報が不足している。クラブを訪問して情報を提供しているが、理解が行き届いていないクラブも多いという印象である。
本日のパネルディスカッションでは論点を以下の３つに分けて検討したい。

①我がクラブが考える、あるいは現在検討しているＣＬＰについて
寺下（和歌山）；困惑している。効果的ならば反対する必要はない。
井口（和歌山南）；ＣＬＰを採用する気持ちはない。言われるようなクラブの簡素化・効率化する必要があるのか。我々のクラブでは過半数の会員が何らかの役についており、積極的な関わりを持っている。現状の組織で十分対応できる。
市川（和歌山東南）；会長方針としてＣＬＰ委員会を立ち上げた。クラブの定款に抵触しない範囲で自由に、自主性が発揮できるとされ、今後はバラ色という雰囲気になっているが、はたしてそうか疑問がある。
新しい委員会構成になったとき地区がどのように指導してくれるか懸念がある。率先して取り入れたところがどうなったかデーターがない。早急に取り組むべきものでもないようだが。クラブとして委員会の統廃合を検討するため、来期、細則検討委員会を立ち上げる予定。
吉岡（アゼリア）；昨年の PETS の後すぐに検討を始めた。若いクラブであり導入しやすい。直前会長を理事に、財団部門の充実し、副会長を広報担当にするなどの変更を次年度から行う予定。３つの奉仕を一つの委員会にまとめるとかなりやりやすくなるのではないかと考えている。
上野山コーディネーター；クラブの歴史、規模によって受け止め方が異なっているこ

とが明らかになった。効率化が総てではなく、非効率も大切であるといえる。

②ＲＩが提唱したＣＬＰに対する疑問点について

山本（和歌山城南）；ＣＬＰの目的がクラブの強化・活性化であることは理解できる。広報については欠けている面があったように思うが、基本的に現状のままでゆける。今、何故ＣＬＰなのか疑問。

中村（和歌山西）；人数が少なくなった我がクラブでは、ＣＬＰを採用しようと変わらない。rotary について考える機会を得たことは良かったが、今は会員増強に頭がいっている。rotary について考えてみたが、魅力がないのか、経済的な問題なのか会員勧誘のときどのように伝えたらいいか。原点に返って考えるべき時のように思う。

久保（和歌山中）；rotary と他の団体との相違点は、I serve と We serve であり、rotary の identity は職業奉仕にあると考えている。しかし宣伝し、広報してお金を増やすだけでいいのか。今の風潮のなかで、I serve と胸を張っていられるようにしたい。

長期目標にしても、我々は１０年以上継続した奉仕活動を行っているが、更にその活動の中から新たな方向へ発展してゆく奉仕が幾つかある。特に長期目標を立てなくても色々なことが実践に基づいて出てくるものである。

ＣＬＰへの対応はこれからの問題であるが、職業奉仕が解らない。成功例を確かめながらやって行きたい。

山本（和歌山北）；情報委員会でＣＬＰに取り組んでいる。IDM でもよく分からない状態。現在特に差し迫った状態ではない。

藤田（和歌山東）；ＣＬＰは突然に持ち上がったように言われているが Web site では、2001 年頃からたくさん出ていた。日本と感覚が違うのではないか。集金マシーン化するかもしれない。クラブを向いて取り組んでいただきたい。

市川（和歌山東南）；rotary の原点が職業奉仕とされてきたが、すべての奉仕がひとまとめとなり色あせてきた。来期の資料はＣＬＰに従った５委員会だけで方向付けされているように思うが如何なものか。

RI による管理強化が目的で日本の実情に合うか疑問。

地区が推奨を望むのであれば強い指導力を発揮すべき。ＣＬＰではクラブの裁量分が大きくなり、地区との整合性が取れるのだろうか。

継続性に重きを置くとされるが、新会長、新委員長の力が発揮できないのではないか。タイミングの合った新規の事業が出来ないのではないか。

上野山コーディネーター；RI 情報が遅いという点では、地区はそれなりに対応している。推奨細則は、必ずしもこれを取り入れなければならないというものではない。職業奉仕は、rotary の identity ではあるが、薄れてきたのも事実。

中島パストガバナー；ＣＬＰは RI の職員が出してきたもので、規定審議会を経たものではない。US の rotary では、人を育てる職業奉仕は論外となり、今は単なる奉仕団体にすぎなくなった。職業奉仕活動があってこそ rotary と思う。

rotary 運動の強化とクラブの数的強化とは意味が違う。世の中は分業で成り立っている。地域社会の代表が rotarian として選ばれているはずであり、職業道徳を高めている。同一職業５名としたことに問題があり、代表という概念が希薄となり誇りが持てなくなってきた。

今は意見が乖離してきている、日本は止めるのでなく独自の道を切り開いてゆくべき。rotary 運動が消えるかどうかの瀬戸際であり、真剣に考えてください。

③地区への要望

上野山コーディネーター；ＣＬＰはあくまでも RI からみた活性化である。５つの委員会があるがモデルの一つにすぎない。

寺下（和歌山）；５クラブ委員会構成が単なるモデルだといわれるが、ＤＬＰがそうであったようにＣＬＰも強制的になってくるのではないか。今のままでＣＬＰの一つと考えて良いか。RI、地区、クラブの連携が重要であろう。

上野山コーディネーター；力のない弱小クラブはそうなってしまうだろう。

小島ゼネラルリーダー；定款には委員会は載っていない。抵触しない限り細則を自由に変更したらいい。理事会が賛同すればいいので自由に委員会組織を作ればいい。

中島パストガバナー　；クラブ定款に、四大奉仕部門の記載を確立するように規定審議会に出したい。

前窪パストガバナー；会長エレクトの資料ではＣＬＰの５委員会が入っている。
各クラブは既に奉仕の形は出来ている。時代に合わないものは淘汰されこれが継続。日本は日本の rotary 活動を考えればいいのであって、こうでなければならないというものでない。
国に対してして我々は、教育、勤労、納税の義務がある。rotary では何をもって義務とすべきか、新世代、職業奉仕、社会奉仕がそれぞれ対応する。
rotary は社会に啓蒙する団体であるべき。

月山パストガバナー；はたしてＣＬＰが全世界に、これでなければならないとなった場合困るだろう。今まで通り奉仕部門が残るよう努力する。
自己のクラブに適合した効率的な細則を作ればいい。
規定審議会通らずに出たもので混乱を招いているがこのこと自体規約違反である。　上野山コーディネーター；ＤＬＰとＣＬＰを同一線上に見なした発言があったが、これは違うことを明言しておきたい。

山本（和歌山北）；2640 地区でＣＬＰ担当委員会を設置して、勉強する機会を作ってほしい。

上野山コーディネーター；クラブに対する押しつけであってはいけない。

平原ガバナーエレクト；ＣＬＰはクラブ強化の道具である。クラブの実状を見つめ、検討してほしい。しかし rotary の一番大切なところを見失わないようにしたい。

吉岡（アゼリア）；確かにＣＬＰは道具であると思う。地区に常任委員会の設置を望む。　中島パストガバナー;財団から資金を取り付けて事業という話があった。財団の仕事として①人材育成と②困っている人に手をさしのべるがある。プログラムの意義を理解して活用いただきたい。

亀岡パストガバナー；ＣＬＰについて一昨年の RI 理事会の抄録に記載があった。昨年３月 RI 会員増強研修会がありその資料にＣＬＰがあった。
定款に抵触しない限り自己のクラブで上手く使えばいい。職業奉仕をなおざりにしてはいけない。
本邦では 2840 地区の前橋 RC が率先してＣＬＰ体制に入ったが、クラブ奉仕をＡ、Ｂに分けているが、ＣＬＰを実施して効果的に運用している。

上野山コーディネーター；定刻となったが、活発な論議を得て上手く進行できたようである。本日の討論を参考に、今後魅力あるクラブ作りに励んでいただきたい。

閉会式

［講評］ゼネラルリーダー　小島　哲

・過去 20 年間で各クラブは弱体化したというか活気を失くしたように感じます。
・本日はＣＬＰに対し各クラブがどう取り組むかというＩ．Ｍ．でした。
・単にクラブ委員会の組織を変えることが活性化ではなく、それをどのように運用していくかが大切です。
・ロータリアン自身が誇りを持ち、またロータリアンとして回りから信頼されることがクラブの活性化ではないでしょうか。
・ＣＬＰを語る以前に皆さんのクラブをどうすれば活性化できるのか、活性化されたクラブとはどういうものかを真剣に考えて頂きたい。

［総評及び次回ホストクラブ紹介］

ガバナー　三軒　久義

・私は当地区の唯一のＲＩの役員であり、またＣＬＰはいい道具だと思っています。
・今回和歌山ではあまり歓迎されていないように感じましが、ＣＬＰの考えの動機を今更問うよりそれを如何に用いるかを考えたい。
・　ＣＬＰは今準備期間であり、各クラブで自由に考えてもらっていいと思っています。

［次回ホストクラブ会長挨拶］

和歌山中Ｒ．Ｃ　久保　邦臣

・今回ＣＬＰという問題をこの時期に取り上げてくれたことは有意義でした。当クラブの新執行部は既にＩ．Ｍ．の準備を進めています。皆様のご協力をお願いします。